

2 研究の実際

(8) 食育推進に向けての連携の在り方についての提案

これまでの実践を基に、本研究員会で食育推進に向けての連携の在り方について、以下の2点を提案します。

ア 家庭科（家庭分野）担当教員と栄養教諭との連携の在り方（小・中学校）

平成29年度の文部科学省の学校基本調査によると、佐賀県には63名の栄養教諭が配置されています。佐賀県内には、小・中学校あわせて約300の公立学校があり、栄養教諭の配置の割合は全体の約三分の一となっています。

栄養教諭は児童生徒に食育に関する指導を行うこととなっている一方で、学校給食に係る献立作成や安全管理等も行うなど、業務が多岐にわたっています。食育が学校の教育活動全体を通して行われるものであるという認識を深めることはもちろん大切ですが、家庭科、技術・家庭科家庭分野（以後、技術・家庭科という）担当教員が積極的に栄養教諭と話す機会をもつなどして、連携を図り、食育の取組の充実へつなげる必要があると言えます。

栄養教諭が年度当初に食育の指導に関する年間計画を配布し、特別活動等の時間における担任や教科担当との連携を呼び掛けている学校もあります。教科担任制である中学校においては特に、栄養教諭と教職員との架け橋となるべき存在が家庭科、技術・家庭科担当教員と言えそうです。実態調査の自由記述によると、児童生徒に自分で調理する力（実践力）を身に付けさせることの重要性は多くの家庭科、技術・家庭科担当教員が共通して感じていることだということが分かりました。そこで、技能面を取り扱う家庭科、技術・家庭科の調理実習において、栄養教諭と家庭科、技術・家庭科担当教員が連携を図って授業を行うこと、そしてそれを継続することで、児童生徒の実践力の定着にもつながると考えます。さらに、各地区別に行われている学校給食（食育）研修会に、家庭科、技術・家庭科担当教員が参加することができれば、連携の時間がもてないという課題の解決にもつながると考えます。

全ての小・中学校に栄養教諭が在籍していないことから、家庭科、技術・家庭科担当教員が基軸となって各地区の栄養教諭や各教科等と連携を図ることは、食育の推進にとって重要なポイントになると考えます。

イ 校内組織における食育担当者の位置付け（高等学校）

これまでの食育は、給食が実施されている小・中学校が中心であり、高等学校における食育の取組は十分とは言えないところもありました。平成23年度の佐賀県県民健康・栄養調査によると、20代の朝食欠食率が一番高く、朝食欠食が始まった時期も一番多いという結果が出ています。このことから、高校生への食育を充実させなければならないことが分かります。

しかし、高等学校には栄養教諭が在籍していないため、食育に関する指導を中心に行うのは家庭科担当教員になることが多く、単位数が少ない家庭科の授業だけでは、食育を十分に行うことができない現状にあります。だからこそ、家庭科担当教員と養護教諭や保健主事との連携が欠かせないものとなります。養護教諭で構成している教科等部会において、食育についての共通した取組を行っている地域もあります。研究委員の在籍校においては、保健室を訪ねてくる生徒に対して食に関する聞き取り調査を実施し、食と健康との関係について個別に指導したり、全体での指導に生かしたりしているということでした。保健部に食育担当者を入れて組織し、保健部の活動の1つとして食育を位置付け、保健部を中心として学校全体で食育に取り組むことが重要であると考えます。今回作成した系統表や一覧表を活用し、家庭科担当教員と保健部から学校全体に連携の輪を広げていく必要があると考えます。

ウ 今後の食育推進の展望

食育の指導体制を作るためには、学校内にそのための組織が立ち上げられていることが重要ですが、学校外にも組織としての指導体制を確立する必要があると考えます。食育に係る教職員を対象にした研修会は、県や各市町でそれぞれ開催されています。県が主催する研修会を見てみると、保健体育課が主催する栄養教諭や学校栄養職員を対象とした研修会、くらしの安全安心課が開催するワークショップや食育活動実践モデル研究事業、教育センターが主催する全ての教職員を対象にした食育講座等があります。これらの研修や事業はとても有意義なものですが、学校現場の多忙化により、対象の研修会であっても全てに参加することは難しい状況です。また、教科等や校種を超えて交流できる研修会等はあまり実施されていません。県の組織や教科等部会などの関係者同士が連携・協働し、つながることで、個々の取組をより一層広げていくことが可能であると同時に、学校のニーズに応えることにもつながると考えます。また、地域には食に関する施設や団体等も多くあります。それらの関係施設と学校を結び付けるコーディネーターとしての役割を果たすことも組織として求められているのではないのでしょうか。